

リーディングプロジェクトの展開について



令和6年7月29日（月）

Agenda

1

概念

リーディングプロジェクトの位置づけ

2

LP 1

居心地の良い都市空間形成プロジェクト

3

LP2

花や緑との身近なふれあいプロジェクト

4

LP 3

持続的な自然との共生プロジェクト

Agenda

1

概念

リーディングプロジェクトの位置づけ

2

LP1

居心地の良い都市空間形成プロジェクト

3

LP2

花や緑との身近なふれあいプロジェクト

4

LP3

持続的な自然との共生プロジェクト

リーディングプロジェクトとは

●緑の力を効果的に発揮、先導的な役割を担うプロジェクトを設定

リーディングプロジェクト1 **呼び込む×つなぐ**
居心地の良い都市空間形成プロジェクト

緑の多様な機能を生かして、都市の魅力と価値を高める



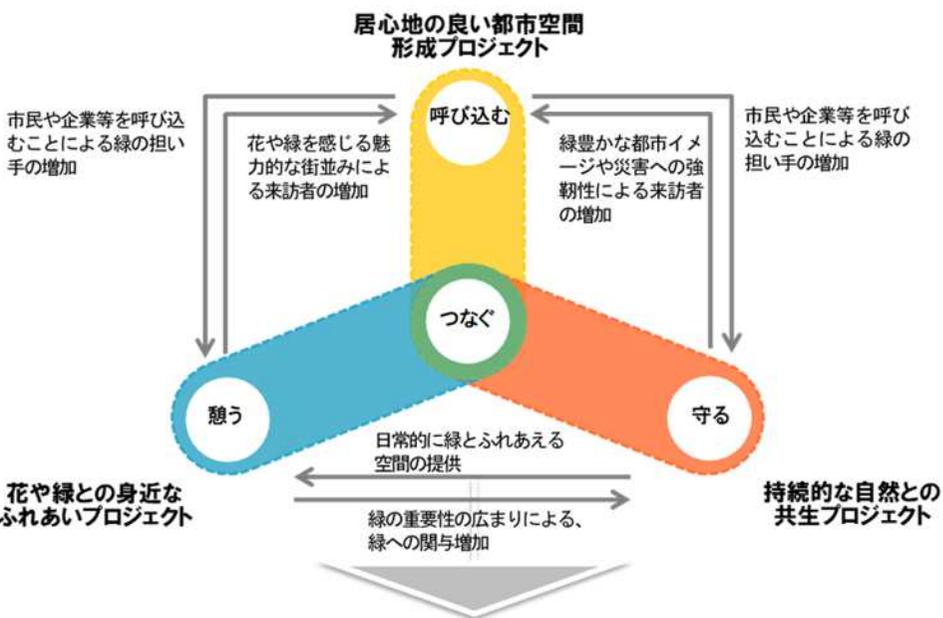
リーディングプロジェクト2 **憩う×つなぐ**
花や緑との身近なふれあいプロジェクト

花や緑との身近なふれあいを通じ、緑あるライフスタイルを実現する



リーディングプロジェクト3 **守る×つなぐ**
持続的な自然との共生プロジェクト

緑と市民の関わりを強め、自然と共生する暮らしを将来に継承する



「みどりの豊かさを感じる、快適なまち さいたま」の実現

Agenda

1

概念

リーディングプロジェクトの位置づけ

2

LP 1

居心地の良い都市空間形成プロジェクト

3

LP2

花や緑との身近なふれあいプロジェクト

4

LP 3

持続的な自然との共生プロジェクト

大宮ストリートプランツの展開 [概要]

大宮ストリートプランツプロジェクトは、可動式植栽の配置により、緑豊かなストリートを形成するとともに、ベンチ等と組み合わせた居心地の良いパブリックスペースを創出し、街路空間における回遊性及び滞在性の向上を目指す社会実験。

緑化による効果や公・民が連携した新たな緑化マネジメントの仕組みを検証し、市内他エリアへの展開を目指す。

VISION

1. [大宮の歴史の発掘]

大宮周辺の植木・苗木生産地を基盤とした、緑のある街路沿道の風景を復活させ、大宮の歴史を感じさせる風景を生み出します。

2. [緑化による滞在性向上]

街路沿道の緑化によって、居心地が良く滞在性の高い街路空間を創出し、緑あるライフスタイルを生み出します。

3. [維持管理の継続]

公・民が連携した新しい仕組みで設置・維持管理を継続し、都市の緑を保ちます。



植木市の様子
(さいたま市アーカイブセンター所蔵)



沿道の方々による水やり等による維持管理



大宮ストリートプランツの展開 [R5実施概要]

LP1

担当：みどり推進課

山丸公園



大宮門街前歩道部



実施期間 | 2023年8月21日～11月30日 ※山丸公園は9月30日まで
実施体制 | 主催：大宮駅周辺グリーンインフラ公民連携プラットフォーム（GIAP）／企画進行：UDCO／共催：WOODSMART・秀花園／
プロジェクトパートナー：（調査協力）芝浦工業大学、（施工協力）トーシンコーポレーション

大宮ストリートプランツの展開 [R5協賛実績]

LP1
担当：みどり推進課

協賛等による資金調達の実績



[STREET PLANTSへの協賛]

- ・企業広告協賛 ￥400,000
- ・クラウドファンディング ￥15,000
- ・その他（個人協賛） ￥10,000

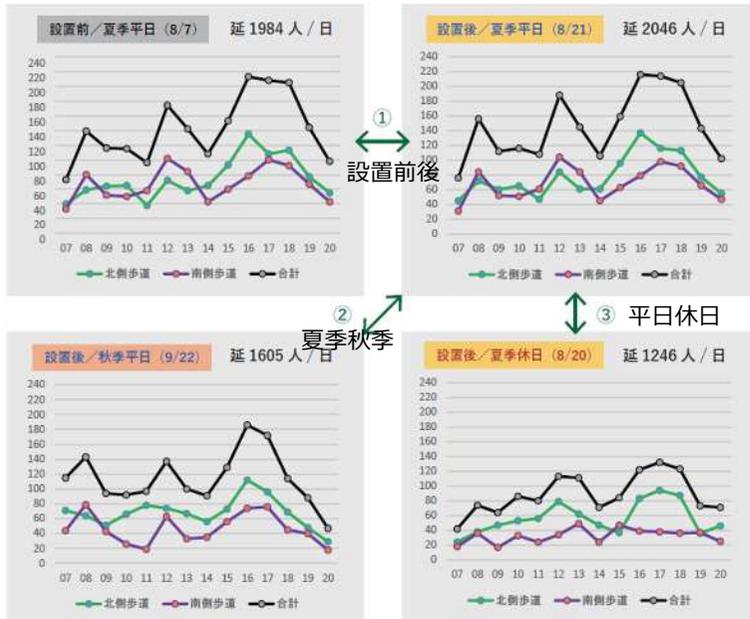
合計 ￥425,000



大宮ストリートプランツの展開 [R5効果検証／山丸公園]

LP1
担当：みどり推進課

歩行者交通量調査（日交通量・経路別交通量）



設置による選択経路
及び歩行者交通量への
影響なし

滞在性調査（滞在時間・行動種別）

[1日の滞在時間及び、各日の1人あたり平均滞在時間]

	延滞在時間	平均滞在時間/人
設置前／夏季・平日 [: 8月 7日(月), 平均気温 30.1°C, 晴れ]	—	—
設置後／夏季・休日 [: 8月 20日(日), 平均気温 30.7°C, 晴れ]	6時間54分	11分50秒
設置後／夏季・平日 [: 8月 21日(月), 平均気温 30.1°C, 晴れ]	2時間 1分	11分00秒
設置後／秋季・平日 [: 9月 22日(金), 平均気温 25.0°C, 晴のち雨]	3時間28分	14分52秒

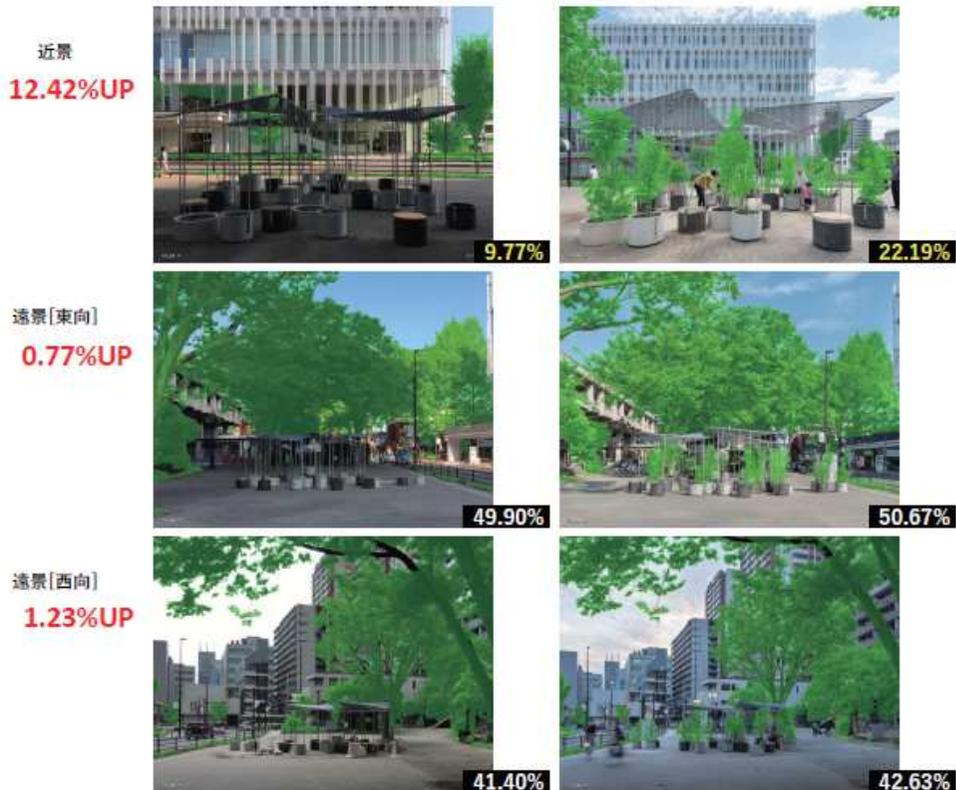
- 休日は平日の3.5倍の延滞在時間、平均滞在時間は同程度
- 秋季の延滞在時間（3時間28分）：夏季の1.75倍
- 秋季の平均滞在時間（14分52秒）：夏季の1.35倍
-
- 山丸公園の滞在行動は、60%以上が「遊ぶ」行動



歩道部での検証結果（R4）
と比較し、平均滞在時間の
長さや、行動種別に特徴が
見られた

大宮ストリートプランツの展開 [R5効果検証／山丸公園]

緑視率に関する調査



AI緑視率調査プログラム（国総研）を使用

利用者インタビュー

公園利用者に対し、ストリートプランツを設置してどのように感じたかをインタビュー（9/28、10/3の2日間）

[アンケート] 継続的に設置してほしいか

○「はい」

- あると気持ちが良い（30代母親、70代女性）
- これからの季節に設置してほしい（50代男性）
- シルバー人材の方と水やりを親子で楽しんだ（30代母親）

×「いいえ」

- 子どもが自転車に乗れなくなった（20代母親）
- 子どもが走り回れない。遊べる要素が欲しい（30代母親）

その他：大宮門街前での継続設置を希望したい（2名）

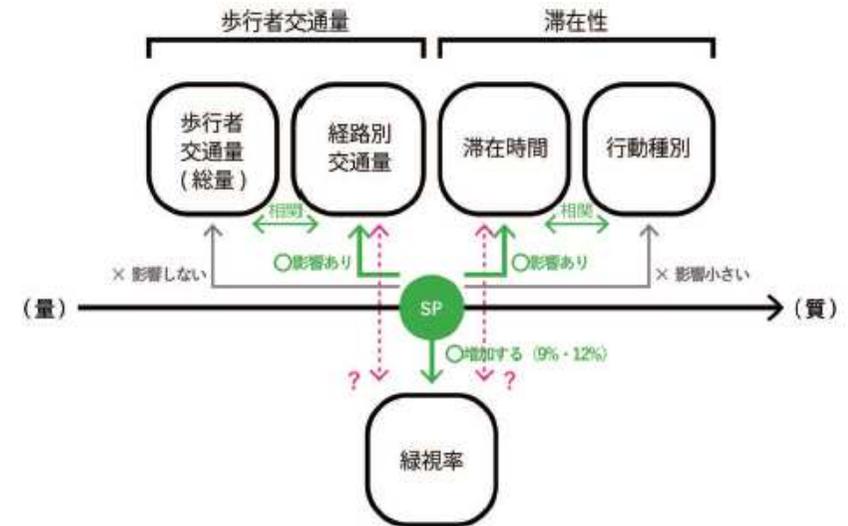
[回答]

- ストリートプランツがあること自体はとても良いが、暑いので座らない。
- 子どもが走り回ったりみかんを触ったり空間は使用した。
- 危険だと思って年少以下は近づかせなかったが、年中さん以上は近づいて楽しんだ。

大宮ストリートプランツの展開 [効果検証まとめ]

[過年度までの効果検証に関する考察]

- SP 設置に伴う「通過交通量総量」に対しての影響は見受けられない (R4・R5)
 - SP 設置は通過交通量に対して影響しづらい
- SP が設置された経路の「経路別歩行者交通量」は増加した (R4)
 - SP 設置により歩行者の選択経路が変化する
- 歩行者交通量と延滞時間は相関が見受けられる (R4・R5)
 - SP 設置により歩行者交通量の多い空間では滞在時間が増加する
- 既存の歩行者交通量の大小に関わらず、ストリートプランツは、滞在の質に関わる「平均 10 分程度の滞在行動」や「(既存利用状況に応じた) 新たな滞在行動」を発生させることが明らかになった。
 - SP 設置は滞在時間を増加させる
- ストリートプランツが歩行者交通量を誘引する可能性はまちづくりにおいて重要な視点であるが、ストリートプランツによる緑視率が歩行者交通量に影響を与えるほどの認知・規模に至っていないため相関が確認できていない。
 - 緑視率が歩行者交通量の増減に影響を及ぼしたとは未だ言いがたい
- ストリートプランツによる緑視率が滞在行動の質に影響を与えている可能性があることが、調査により明らかになったため、平均滞在時間や行動種別と、緑視率の関係を調査していく必要がある。



[STREET PLANTS の効果検証の視点]

[歩行者交通量]

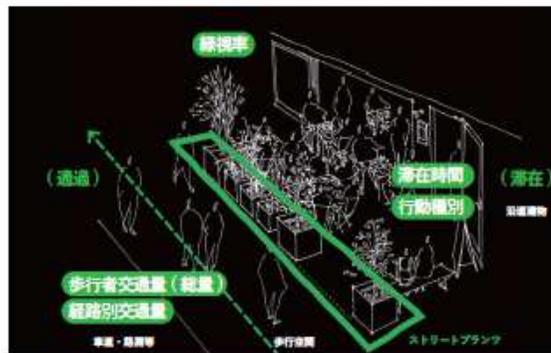
- ・歩行者交通量 (日当たり延べ歩行者交通量)
- ・経路別交通量

[滞在性]

- ・滞在時間 (日当たり延べ滞在時間)
- ・行動種別 (滞在行動の種別)

[緑視率]

- ・緑視率 (アイレベル緑視割合)



[R6 年度効果検証予定]

1. 滞在性調査

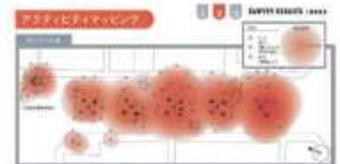
- ・歩行者交通量分析 : SP 設置前後の単純交通量の比較
- ・滞在時間 / 滞在行動種別調査 : 滞在空間における延滞滞在時間 / 行動種別の分析
- ・移動経路分析 : 滞在空間と街路を歩き来する行動の分析
- ・アクティビティマッピング分析 : 滞在行動の分布と種別に関する分析

2. 緑視率調査 ※調査地・日時要検討

- ・滞在空間毎の緑視率の把握 (国総研画像解析プログラムの活用)

(3. 風速調査) ※効果検証の主たる視点ではなく、安全性確認のための調査

- ・10m/s 以上の予報平均風速が発表された際に、現地計測を行い、鐘塚公園での風速傾向を掴む
- ・WINDY 予報風速と現地風速を比較して傾向を掴む



LP1

担当：みどり推進課

大宮ストリートプランツの展開 [R6効果検証／鐘塚公園]

滞在性・緑視率の調査

目的：ストリートプランツ(緑化滞在空間)の設置による公共空間の滞在性・緑視率を把握し、今後の設置に向けた基礎情報を得ることを目的とする。
特に、今年度は緑視率と滞在性の関係性にフォーカスし、滞在行動が生じた地点と緑視率の比較に向けた調査を行う。

[経路別歩行者交通量の分析]

[延滞在時間の集計]

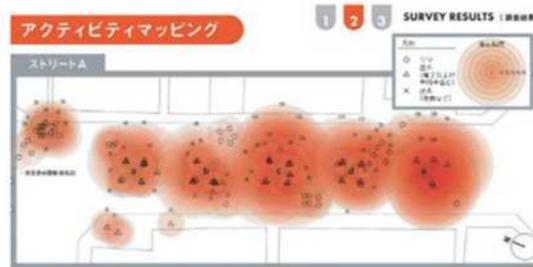
調査方法 | 定点動画分析
：現地定点撮影動画の分析・集計
調査時期 | 設置前及び設置後(夏、秋、冬)



ストリートプランツ設置位置及び歩行経路

[滞在行動(地点・種別)の分析]

調査方法 | アクティビティマッピング
：毎時5分間の滞在行動の
発生地点・行動種別の調査
調査時期 | 設置前及び設置後(秋)



調査イメージ



滞在行動の発生地点のイメージ

[滞在地点別の緑視率の分析]

調査方法 | 地点別画像の緑視率解析(滞在者視点)
：AI緑視率調査プログラム(国総研)
による分析・集計
調査時期 | 設置前及び設置後(秋)



解析イメージ

LP1

担当：みどり推進課

大宮ストリートプランツの展開 [R6実施内容]

ソーシャルファンディングの拡大

ソーシャルファンディング
企業協賛プラン
： ¥300,000×5島 = 計¥1,500,000

概要： ストリートプランツへの協賛ステッカーの掲出	協賛ステッカー 3枚 /1島あたり
金額： ¥300,000(税別)	シェード1台+プランター約6鉢 /1島あたり
期間： 2024年8月23日～12月1日	期間： 2024年8月30日～12月1日
場所： 大宮門街前歩道部 @JR大宮駅東口から徒歩3分	場所： 鐘塚公園 @JR大宮駅西口から徒歩4分

掲載情報： プランツの設置レイアウトは図説をご覧ください。撤去内容詳細については別途ご照会（撤去に自費負担の発生が必要となります）
※各付帯の仕様や植物の相場等は別途見積りをご案内の上で実施上律にさせていただきます。



協賛ステッカーの掲出イメージ



リースは植物12mm幅迄を想定



ロゴ・メッセージ・デザインの参考資料

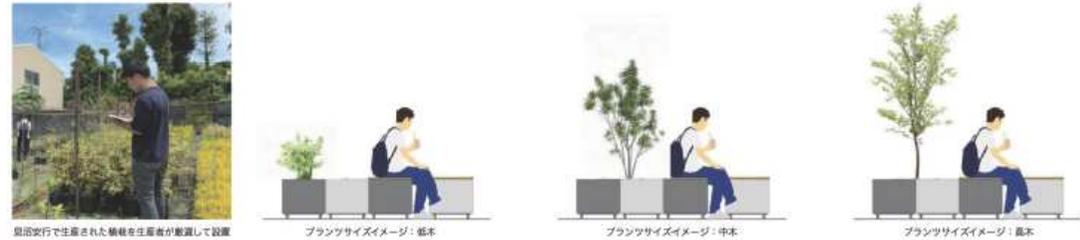


設置個数： 鐘塚公園2島+大宮門街前歩道部3島

植物の所有権/維持管理： 所有権はUDCOとなります。植物の維持管理は、別途維持管理者が実施します。

ソーシャルファンディング 購入プラン

概要： ストリートプランツ(不織布)1点の購入 + 応援メッセージ&売約済札の掲出	・定型デザインとなります ・掲出内容に際してはお応え致しかねます
金額： 低木¥10,000(税別)、中木¥20,000(税別)、高木¥30,000(税別)	・価格帯に現地でご案内いただけます ・現地にでご自身でお持ち帰りいただける方を購入対象といたします
期間： 2024年8月23日～12月1日	期間： 2024年8月30日～12月1日
場所： 大宮門街前歩道部 @JR大宮駅東口から徒歩3分	場所： 鐘塚公園 @JR大宮駅西口から徒歩4分



植物の所有権/維持管理： 会期中の所有はUDCOとなります。植物の維持管理は、別途維持管理者が実施します。
※緑化・植栽などの対応は別途。結核期間は1年間。通常の管理下において結核が生じた場合に備償します。（自然災害等によるものを除く）

グリーンインフラの可視化に向けた動き [令和6年度]

LP1
担当：みどり推進課

樹木の位置・種類等の基礎情報の実測

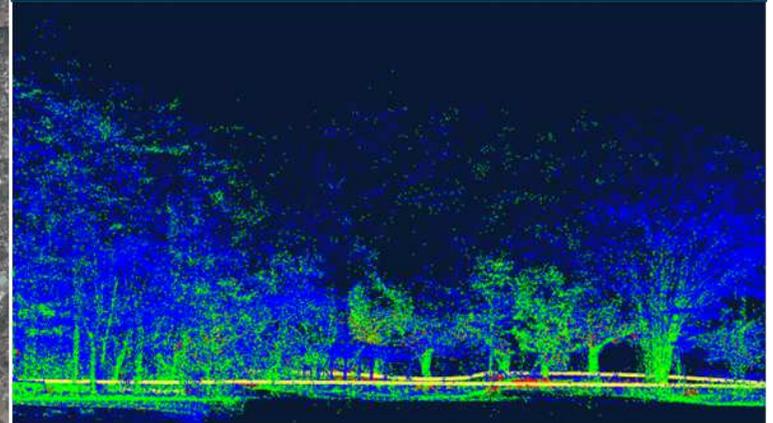
- ✓ 3 個所のモデルエリアにおいて樹木の基礎データを実測します。
- ✓ 毎木調査に加え、公園・緑地での樹木調査に活用が見込まれるLiDAR測量によるデータの収集を試行します。
- ✓ 実測データを用いて樹木のグリーンインフラ機能（CO₂吸収量、炭素蓄積量、大気汚染物質除去量、雨水流出削減量、生物多様性保全機能、緑視率等）の定量化を試行します。



調査を実施するモデルエリア



歩行型LiDAR 計測システムのイメージ。
林内を歩きながら樹林構造を計測できるため、ドローンによる画像撮影・LiDAR計測より簡易的に実施できるメリットがある。



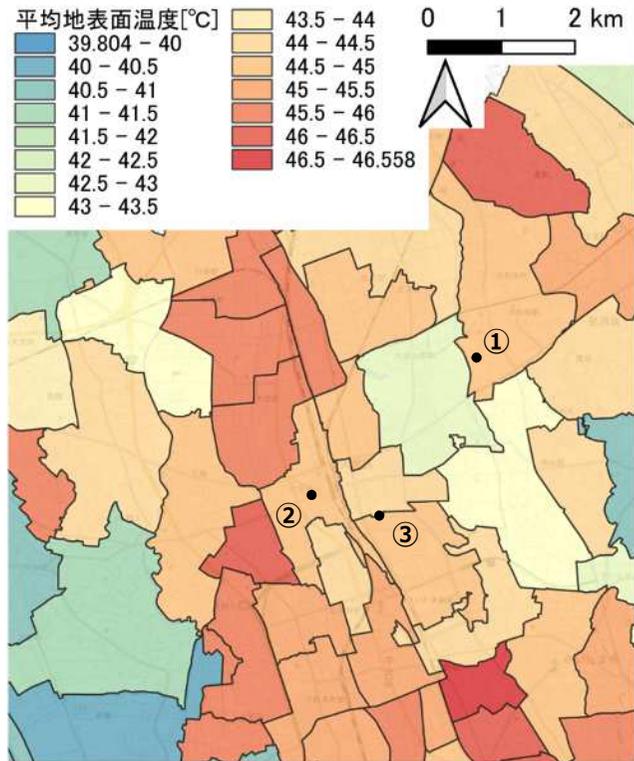
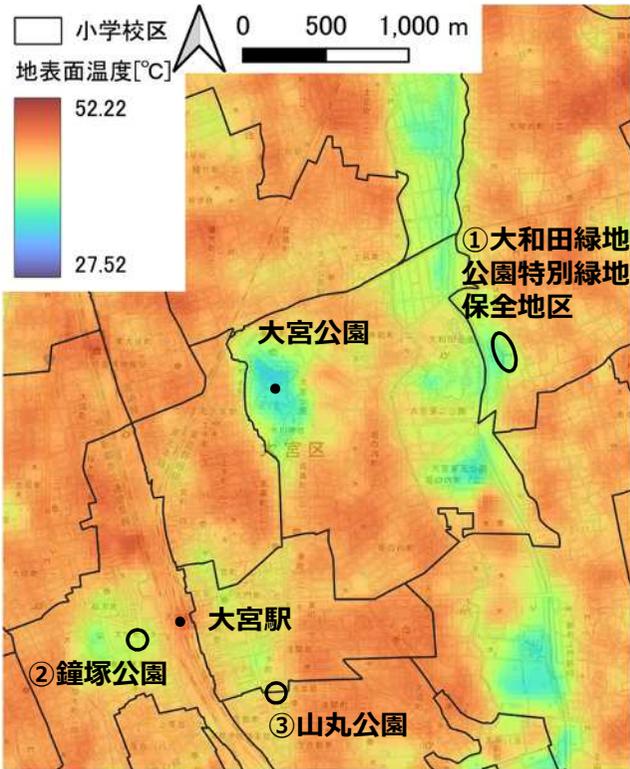
LiDAR測量による調査・取得データイメージ

グリーンインフラの可視化に向けた動き [令和6年度]

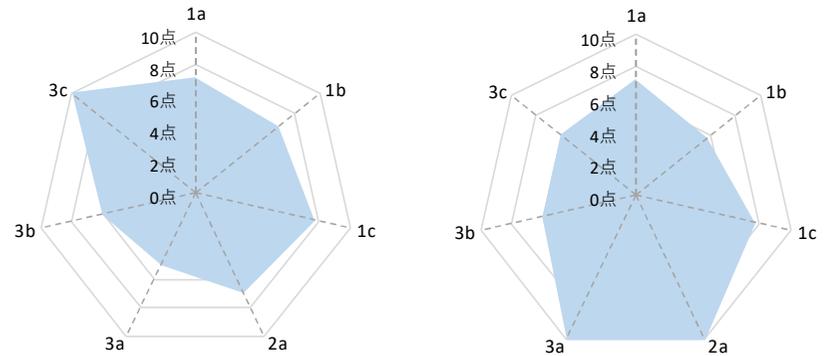
LP1
担当：みどり推進課

モデルエリア周辺地域の評価イメージ

- ✓ オープンデータまたは市所有の既存データを用いて、モデルエリア周辺地域におけるグリーンインフラの効果の見える化を試行します。
 - ✓ 複数の視点で、グリーンインフラの機能を算定し、地域ブロック単位で総合評価を行います。
- ex) GI機能ごとに数値を算出 ⇒ 周辺地域の平均値等を基準に地域ブロックごとに色分け（点数化） ⇒ 複数のGI機能による総合評価



視点	グリーンインフラの機能例	評価指標例
気候変動対策	1a. ヒートアイランド現象緩和機能	地表面温度
	1b. 温室効果ガス吸収機能	年間CO ₂ 吸収量
	1c. 雨水浸透機能	浸透能
生物多様性の保全	2a. 生物多様性保全機能	コゲラ等の生息適地
Well-beingの向上	3a. ストレス軽減	緑被率
	3b. 歩行促進機能	徒歩圏内の緑被歩道延長
	3c. 一次避難地	一次避難困難区域率



地表面温度の可視化例（左:30mメッシュ、右: 地域ブロック平均）

総合評価のイメージ

Agenda

1

概念

リーディングプロジェクトの位置づけ

2

LP1

居心地の良い都市空間形成プロジェクト

3

LP2

花や緑との身近なふれあいプロジェクト

4

LP3

持続的な自然との共生プロジェクト

パークマネジメントの取組

● パークマネジメントとは

新たな機能を有する公園を整備することに加え、人中心のまちづくりの中で公園のポテンシャルを最大限発揮するために、**多様な主体と連携した持続可能な管理運営の方向性を示すもの。**

● 本市が目指す公園像

<p>さいたま市の都市ブランドを高める公園</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント開催等による公園を活用したにぎわい創出 地域に人や企業の投資を呼び込む 	<p>都市と自然が融合したみどり豊かな公園</p> <ul style="list-style-type: none"> 見沼田圃や荒川など、本市のポテンシャルを最大限活用 	<p>個々のライフスタイルに応じた地域交流の中心となる公園</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域や利用者ニーズへの対応 地域の価値創出や課題解決
 <p>市民や来訪者が、まちなかの賑わいや美しい街の景観の中で利用し、気軽に休息する</p> <p>本市を訪れる様々な人が集まり、交流することで、新たな価値を生み出している</p> <p>散歩の道に緑の空間があり、心身ともに健康に過ごすことができる</p>	 <p>自然環境についての学びがあり、緑のまちづくりの思いを育んでいる</p> <p>生動物の生態環境が形成されている</p> <p>豊かな野生、水辺環境が保全され、さいたまならではの自然や風景を体験できる</p>	 <p>シートアイランド現象の緩和や遊歩道などの整備など、暮らしの良質を高める</p> <p>インクルーシブな多様なニーズに応じた公園が活用されている</p> <p>遊具や健康器具、スポーツ広場など、運動地域特性に応じた必要な設備が整備されている</p> <p>地域住民が自ら、公園の必要な機能を話し合い、公園づくりに関わっている</p> <p>市民や団体が、多様な民間のアクティビティを提供する主体として活動している</p>

【出典】さいたま市緑の基本計画，第4章，P.80

● 令和5年度の実施内容について

- 国土交通省等の取組の把握
 - 公募設置管理制度（Park-PFI）の創設
 - 都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会による提言
 - 子ども家庭庁の創設による「子どもまんなか社会」の実現 等
- 先進都市の事例調査
 - 既にパークマネジメントに関する方針を策定している自治体について、各都市が抱えている課題、取組の方向性などの事例収集。

横浜市：公園における公民連携に関する基本方針（令和元年9月）

課題	取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 社会情勢の変化（人口減少、都市間競争の加速など） 厳しい財政状況 	<ol style="list-style-type: none"> ①パークマネジメントプラン等による公園の将来像の共有（大規模な公園を中心としたパークマネジメントプランの策定、公園協議会制度の活用） ②公園愛護会の支援強化と機能拡充 ③公募型事業の展開や制度間の連携等の促進（公募設置管理制度の実施、民間事業者等のアイデアを活用したイベントの仕組みづくり） ④公民連携推進の仕組みの整備 ⑤公民連携に関わる仕組みの整備

川崎市：パークマネジメント推進方針（令和3年3月）

課題	取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズの多様化 維持管理に係る担い手の不足と行政負担の増大 柔軟な利活用や効率的な管理運営を見据えた整備の必要性 	<ol style="list-style-type: none"> ①柔軟な利活用の促進と利用の多様化（地域が主体となった利用ルールづくりの促進等） ②利用者の視点・経営的な視点に立った維持管理・運営 ③柔軟な利活用と効率的な管理運営を見据えた公園づくり（P-PFI等の活用）

リーディングプロジェクト2 パークマネジメントの取組

さいたま市における都市公園の課題

多様な主体による管理運営

事業者や市民、公園利用者など多様な主体が携わることで担い手を広げ、公園を最大限利活用できる環境を整備。

公園のストック効果の発揮

公募設置管理制度（Park-PFI）の創設、グリーンインフラの実装及び多様化するニーズを踏まえた公園整備。

柔軟な公園のルールづくり

公園利用者や地域住民が、公園利用ルールについて話し合い、公園の実態に合った柔軟な管理運営ができる環境整備。

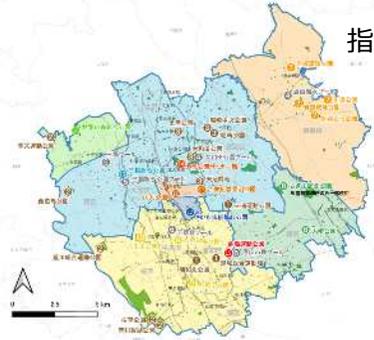
さいたま市における都市公園の取組状況

指定管理者制度の活用による都市公園の管理運営

市内約1,000公園
指定管理者制度による管理運営

～令和5年度
7グループ

令和6年度～
15グループ
による管理運営



公募設置管理制度（Park-PFI）の活用



与野公園におけるPark-PFI整備イメージ

公園協議会の設置

別所沼公園（南区）では、公園に関わる多様な主体の参画・公民連携により、持続可能で魅力ある公園づくりを目指す協議会を設置。

【構成メンバー】
学識経験者
公園利用団体の代表者
近隣自治会長
さいたま市
公園指定管理者 等

協議会

- 自然環境分科会**
 - 【活動内容】
 - ・別所沼の水質改善
 - ・落ち葉対策
- 利用環境分科会**
 - 【活動内容】
 - ・公園の利用ルール検討
 - ・看板のデザイン検討



案内図



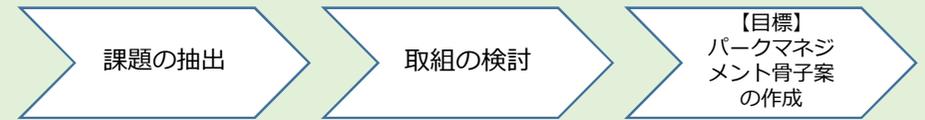
ワークショップの様子

「公園DX」「グリーンインフラとしての保全・利活用」「利用ルールの弾力化」など
新たな視点を踏まえた施策検討が必要

令和6年度の実施内容について

公園部局や指定管理者を含めて、本市の課題、目指す公園像に向けた取組の方向性の検討を進める。

検討プロセス



リーディングプロジェクト2 パークマネジメントの取組

都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言(概要)

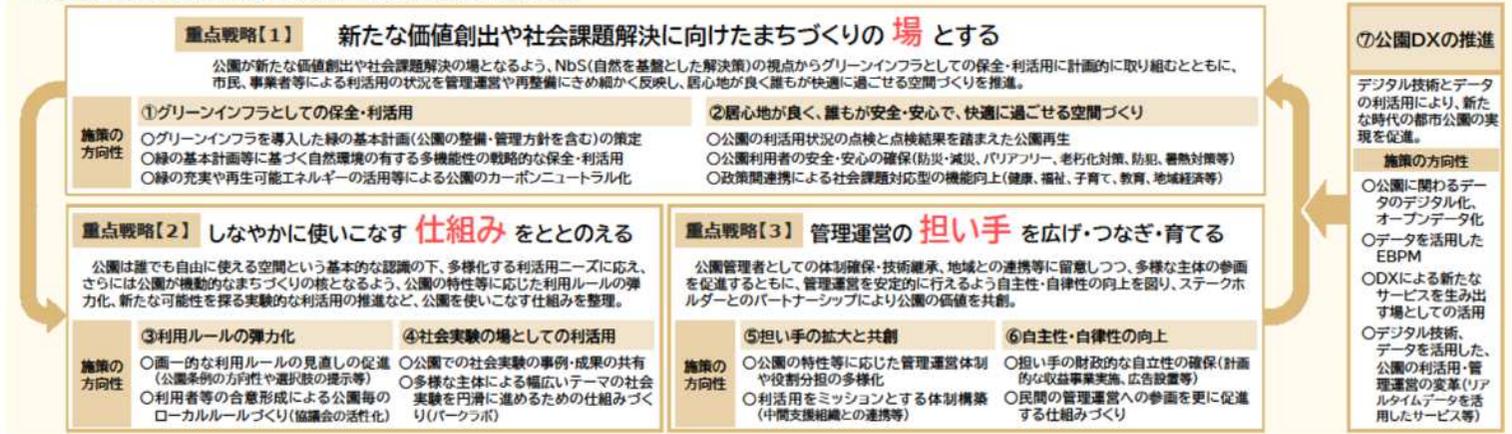
都市公園制度誕生150年目のパラダイムシフト ~人中心のまちづくり時代における都市公園の意義・役割~		<各時代の社会背景>	
明治6(1873)年	太政官布達 都市公園制度の始まり 名勝・旧跡等の群衆遊憩の地を市民の憩いの場として国民に開放 その後、震災時の避難地・防災拠点等として公園整備が進展	都市の近代化、震災復興・戦災復興の都市計画	
昭和30年代~	都市公園法制定(531)、都市公園等整備緊急措置法制定(547) 経済成長、人口増加等を背景に、緑とオープンスペースの量の整備を急ぐステージ	高度経済成長、人口の急増、都市の拡大と過密化	
平成28(2016)年	「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会」最終報告書 緑とオープンスペースが持つ多機能性を都市のため、地域のため、市民のために最大限引き出すことを重視する「新たなステージ」へ	人口減少・高齢化、規制緩和、地方分権、地方創生、国際的な都市間競争、インフラ老朽化と技術職員の減少	
ポストコロナの時代における人中心のまちづくりへの機運の高まり	「居心地が良く歩きたくなる」まちづくりの取組の広がりに ~交流・滞留空間、開かれた心地よい空間の創出~	地球環境問題の新たな潮流 ~人と自然が共生する持続可能なレジリエントな都市の形成~	人口減少、少子高齢化への対応 ~全てのこどもの健やかな成長を目指すことも政策の推進~
	新型コロナウイルスの感染拡大を経たニューノーマル社会への対応 ~人中心・市民目線のまちづくり、ニーズに迅速に対応する機動的なまちづくり~	市民・事業者の意識変化 ~参画意識の高まり、官民連携による社会課題解決と新たな市場創造・成長~	デジタル・トランスフォーメーションの進展 ~既存の仕組みの革新、新たな価値創出~
新たな時代における都市公園の意義・役割 ~公園本来の役割、多機能性、多様な可能性の再認識~			
個人と社会のWell-beingの向上に向け、地域の課題や公園の特性に応じ、ポテンシャルを更に発揮すべき			
持続可能な都市を支える グリーンインフラ		心豊かな生活を支える サードプレイス	人と人のリアルな交流、 イノベーションを生み出す場
		社会課題解決に向けた 活動実践の場	機動的な まちづくりの核

都市公園新時代 ~公園が活きる、人がつながる、まちが変わる~

人中心のまちづくりの中でポテンシャルを最大限発揮するため、パートナーシップの公園マネジメントで多様な活用ニーズに応え、地域の価値を高め続ける「使われ活きる公園」を目指す



都市公園新時代に向けた重点戦略~3つの戦略と7つの取組~



【出典】国土交通省

ガーデンツーリズムの展開

LP2
担当：みどり推進課

● ガーデンツーリズムとは

歴史的な価値のある庭園や植物園、公園などをめぐる観光形態を指し、国土交通省が平成31年4月に登録制度を創設。令和6年3月末時点で全国で17の計画が登録されている。

● ガーデンツーリズム検討の契機

<現況>

- 花や緑に関する地域資源は、それぞれが管理・集客を行っており、連携した取組は限定的。
- 公共花壇で花壇活動を行う花いっぱい運動等では、**高齢化が進み、今後継続的な活動への懸念が生じている。**
- 本市では、人中心の居心地が良く歩きたくなる「ウォーカブル」なまちづくりを推進している。

<今後の展開に向けた考え方>

- 点在している花や緑のスポットを**ネットワーク化**させ、回遊性を創出・促進することで、地域の賑わいの広がりやコミュニティの醸成を図る。
- 地域資源や取組を広げることで、**市民参画**へ繋げる。



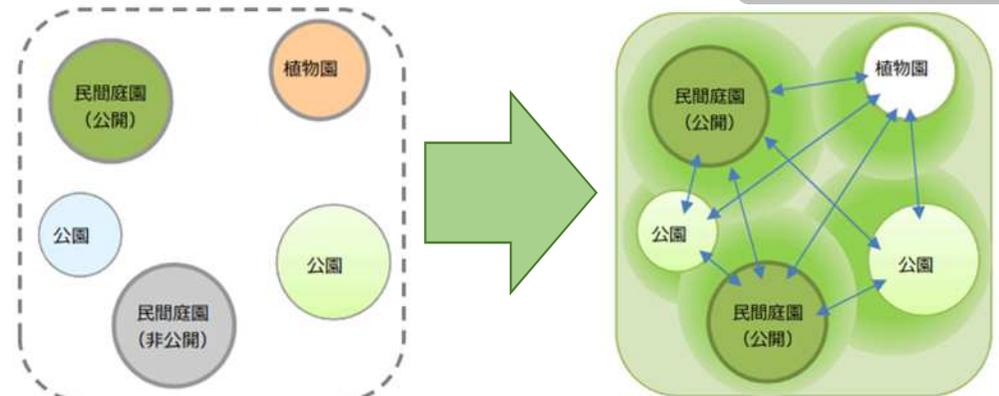
花いっぱい運動



オープンガーデン

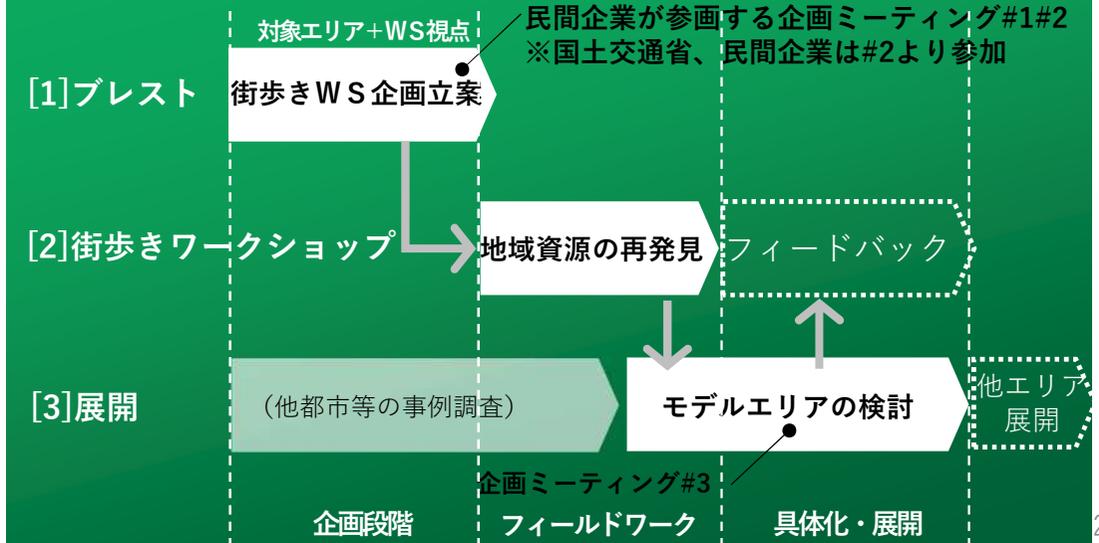


庭園



● 昨年度の取組

<令和5年度検討スキーム>



リーディングプロジェクト2

ガーデンツーリズムの展開

LP2
担当：みどり推進課

● 市民参加型ワークショップの企画及び実施

大宮駅周辺を対象とした街歩きを通じて、緑の資源や課題について市民や民間企業、大学生らと話し合うワークショップを実施した。

また、地域資源の考え方や対象範囲をワークショップの内容を企画MTGで検討を行った。

地域資源の考え方

- 公的な空間としての公園等に加え、街路樹、盆栽、個人宅等多様な緑の資源がガーデンツーリズムの地域資源要素となることが確認できた。

対象範囲

- 大宮駅周辺をモデルエリアとしたため、徒歩での回遊を前提とした。
- 緑の資源の連続性に応じて対象範囲が拡大する傾向がみられた。



ワークショップの結果

フィールドワーク対象範囲	公園	庭園	寺社境内	文化歴史	個人庭	市民花壇	農地	森林	街路樹	その他	特徴
A班/土呂駅-盆栽村	○	○	○							○	四季の花や行事等、日本らしさを体感
B班/大宮駅-見沼田んぼ	○		○	○	○					○	古い住宅の緑と新しい緑を体感
C班/大宮駅-氷川神社			○	○		○				○	参道で歴史と豊かな緑を体感
D班/さいたま新都心-見沼田んぼ				○			○		○	○	見沼田んぼ等、都市部で緑を体感

モデル試行版の作成



リーディングプロジェクト2 ガーデンツーリズムの展開

● 先進的な取組事例の調査

ガーデンツーリズムを実施している先進的な事例を中心に、
主な地域資源や各協議会の構成団体、特徴を調査した。

【既存文献調査】

名称（都市）	公園	庭園	寺社境内	文化歴史	個人庭	市民花壇	農地	森林	街路樹	特徴
花と暮らす恵庭の庭めぐり （北海道恵庭市）	○	○			○	○			○	・市民参加型のガーデンツーリズム ・未利用地・空き地の活用
みよし野ガーデン里山探訪 （埼玉県三芳町）	○	○	○	○			○	○		・ガーデンツーリズムの裾野を広げる取組
むさしの・ガーデン紀行 （東京都国分寺市他4市）	○		○	○						・アプリ・紙併用のスタンプラリー ・地域の移動手段と連携
アメイジングガーデン浜名湖 （静岡県浜松市他2市1町）	○	○	○	○						・ガーデンツーリズムの裾野を広げる取組
森の京都ガーデンツーリズム （京都府京都市他4市1町）	○	○	○	○				○		・回遊ルートの作成ツール ・既存の移動手段の活用
ガーデンネックレス横浜 （神奈川県横浜市）	○	○							○	・市内産の花苗の活用
花と湯の町 なかのじょう （群馬県中之条町）	○	○			○	○				・市民参加型のガーデンツーリズム

【ヒアリング調査】

内容	むさしの	横浜	中之条
全国都市緑化フェアや行政の緑に関する取組（スタンプラリー）を母体にガーデンツーリズムの協議会を設立	○	○	○
移動手段や飲食店等の複合的な要素と連携した情報提供（スタンプラリー・マップの作成）	○	○	
民間企業が参画するメリットを高めるための広報・PR戦略を実施		○	
ボランティア活動のしやすさ・モチベーション向上に資する支援（花苗提供、コンテストでの評価）		○	○

● さいたま市版ガーデンツーリズムの方向性

視点1：対象範囲

- ・ **ガーデンツーリズムの対象範囲は将来的に市域全域に広がることが考えられる。**
- ・ 各自の好み、時間、階層に応じたコース設定を誘導する仕組みの生成とともに、移動手段や情報提供との連携を図ることが求められる。

視点2：地域資源の考え方

- ・ 季節による変化や個人の嗜好による花や緑の重要性を鑑み、「見沼たんぼ」や「盆栽」の活用を含めた資源をガーデンツーリズムの資源として位置付けることがさいたま市におけるガーデンツーリズムの個性となりうる。

視点3：情報提供や機運醸成を図る仕掛け

- ・ 対象範囲が広域になることから、移動手段や飲食・休憩空間等、**複合的な要素を含む情報発信**が必要と言える。

視点4：運営面

- ・ ガデンツーリズムを含む緑の施策・取組を持続していくためには、携わる主体を支える仕組みが必要である。

● 今後のロードマップ

ガーデンツーリズムの実現化に向けて、複数年かけて市内での試行や実施、協議会設立に向けて取組む予定である。

項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
	市内他エリアでの試行・実施			市内他エリアでの試行・実施		
さいたま市らしいガーデンツーリズムの検討に向けた動き	<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市らしいガーデンツーリズムの検討 ・モデルエリアの試行 ・新規エリアでの検討 ・マップ及びデータの作成 					
市民・民間の機運醸成に向けた動き	協議会設立に向けた準備			協議会設立・運営		
	企画MTG・WSの実施					
2027横浜国際園芸博覧会	基本設計	実施設計	工事			★国際園芸博覧会開催

ガーデンツーリズムの展開

LP2
担当：みどり推進課

令和6年度の取組

本市では浦和駅周辺も都心と位置付けており、まちづくり展開とガーデンツーリズムの親和性を踏まえ、**令和6年度は2つ目のモデルエリアとして浦和駅周辺での市民参加型ワークショップを開催し、モデル試行版の作成を行うとともに、さいたま市らしいガーデンツーリズムの実現に向けた機運醸成を図る。**

まちづくりの展開（浦和駅周辺まちづくりビジョン）

【展開4】誰もが快適に移動できるネットワークの強化



令和6年度の実施内容について

令和6年8月 | 第1回企画MTG（開催に向けた意識共有）

令和6年9月 | 第2回企画MTG（ワークショップ当日の企画）

令和6年10月 | 第1回ワークショップ
（机上検討による浦和駅周辺の資源発掘）

令和6年11月 | 第2回ワークショップ
（街歩きによる浦和駅周辺の魅力抽出）

令和6年11月 | 第3回企画MTG
（ワークショップの振返・視察会の企画）

ワークショップ参加予定者

- ◆ 埼玉大学
- ◆ さいたま市花いっぱい運動推進会
- ◆ 民間企業
- ◆ 一般市民 等



Agenda

1

概念

リーディングプロジェクトの位置づけ

2

LP1

居心地の良い都市空間形成プロジェクト

3

LP2

花や緑との身近なふれあいプロジェクト

4

LP3

持続的な自然との共生プロジェクト

持続可能な緑地に向けた公民連携の推進

LP3

担当：みどり推進課

本市では、特別緑地保全地区をはじめ、約60箇所の緑地を市が維持管理を行っている
そのうち、一部の緑地では緑地保全ボランティアによる保全活動が行われている

<問題点・課題>

① 森を育てる人材の確保

知識や技術のある
担い手を増やしたい



② 樹木の適正管理

倒木被害を減らし、
樹木を再生したい



③ 地域の理解

近隣住民から親しまれる
緑地にしたい



④ 使い勝手の向上

訪れる方が使いやすい緑
地にしたい

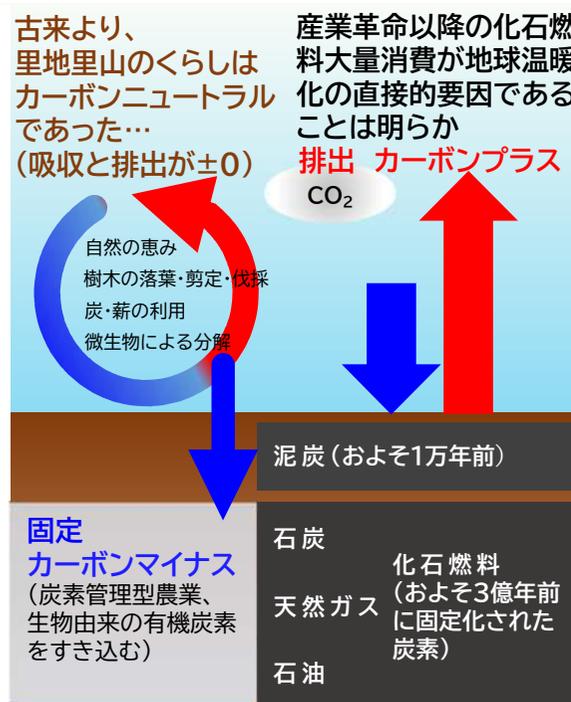
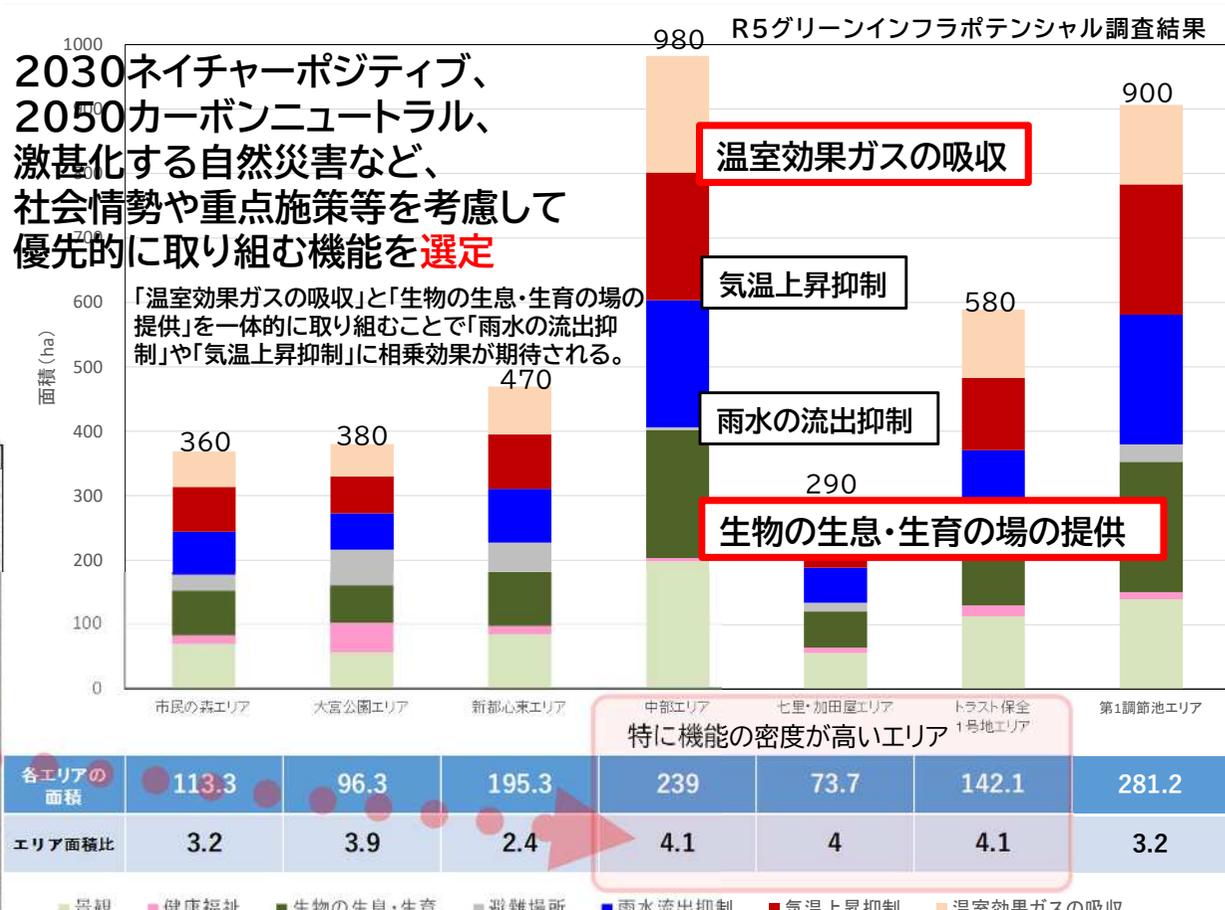
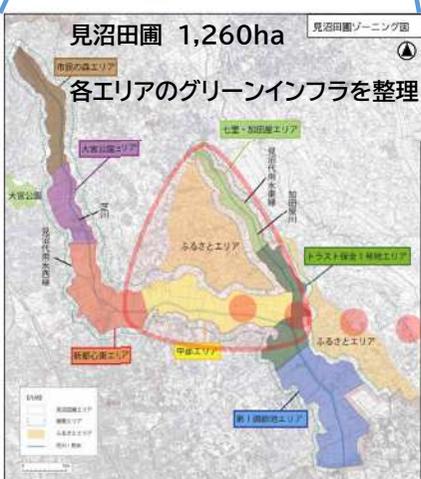


➡ 持続可能な緑地に向け、企業や住民、学生等のノウハウや得意分野を生かした連携方策を検討中

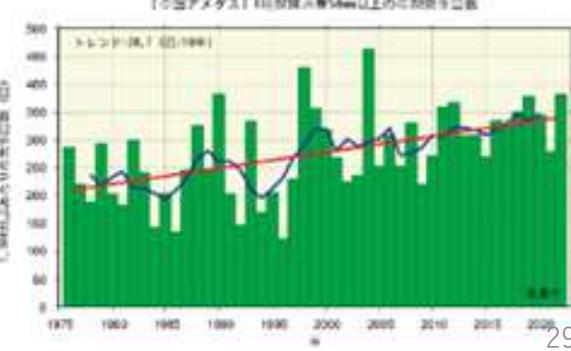
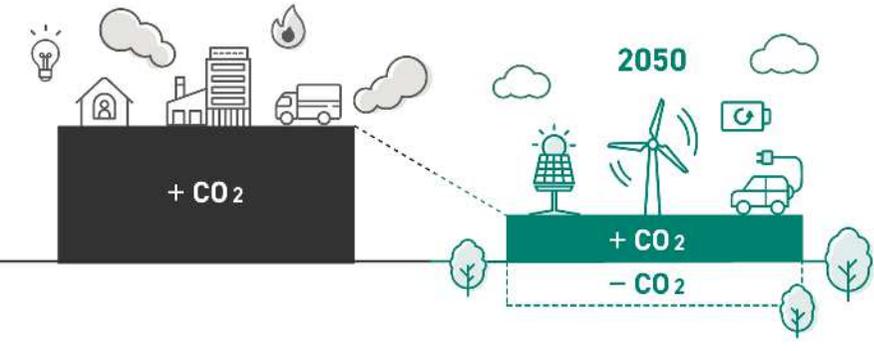
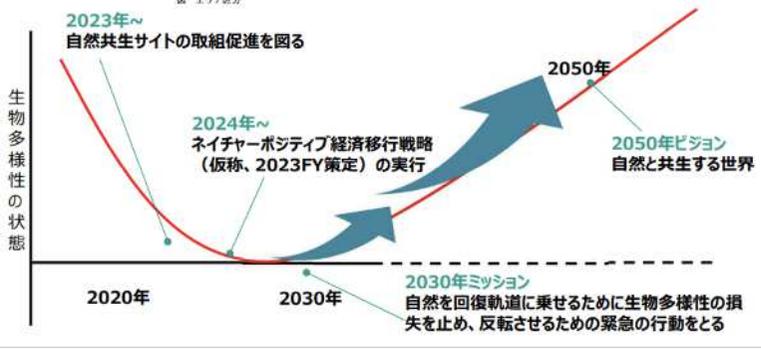


カーボンニュートラルに貢献する見沼田圃等の保全・活用
「見沼田圃におけるカーボンマイナスの取組み」

さいたま市都市局
みどり公園推進部見沼田圃政策推進課



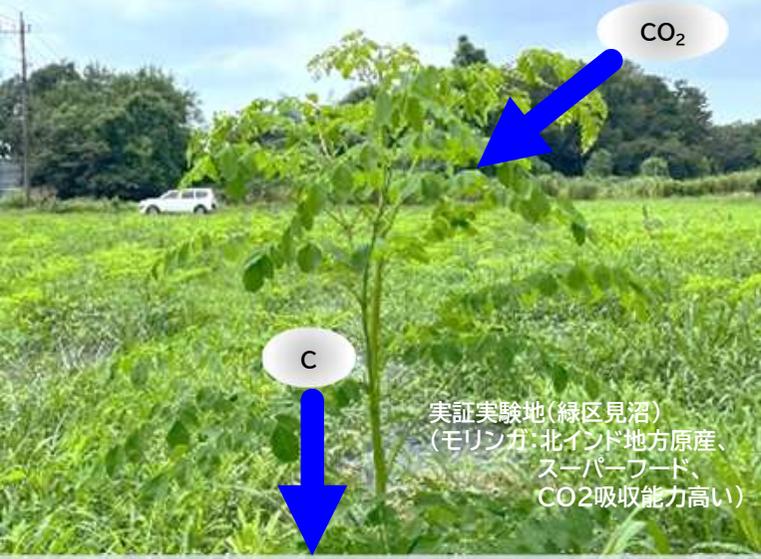
カーボンニュートラルを実現し、
自然と共生する世界の実現に向け、
見沼田圃のグリーンインフラを
活用した実証実験を行う。



見沼田圃におけるカーボンマイナスの取組み

【グリーンインフラ推進プロジェクト】

グリーンカーボン推進事業 「温室効果ガス吸収」機能を活用

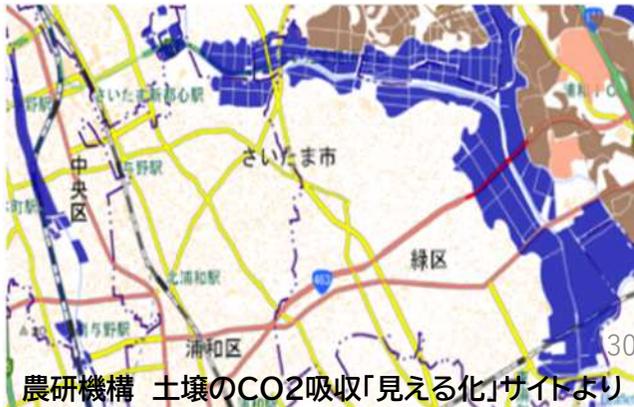


炭素管理型農業（有機肥料や草生農業などの土壌中の炭素量を増加させる栽培方法）により農作物の吸収能力を生かした**炭素固定手法の実証実験**を行う。

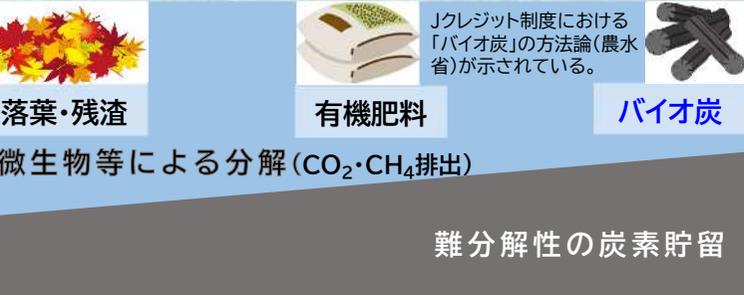
カーボンオフセット、Jクレジットなどの実現を目指す
(市内農地、公園、緑地、公共施設などでもカーボンマイナスの取組みを水平展開)

◆**令和5年度の取組み**
市・大学・ジープックによる産学官事業協定(R6.2.9締結)

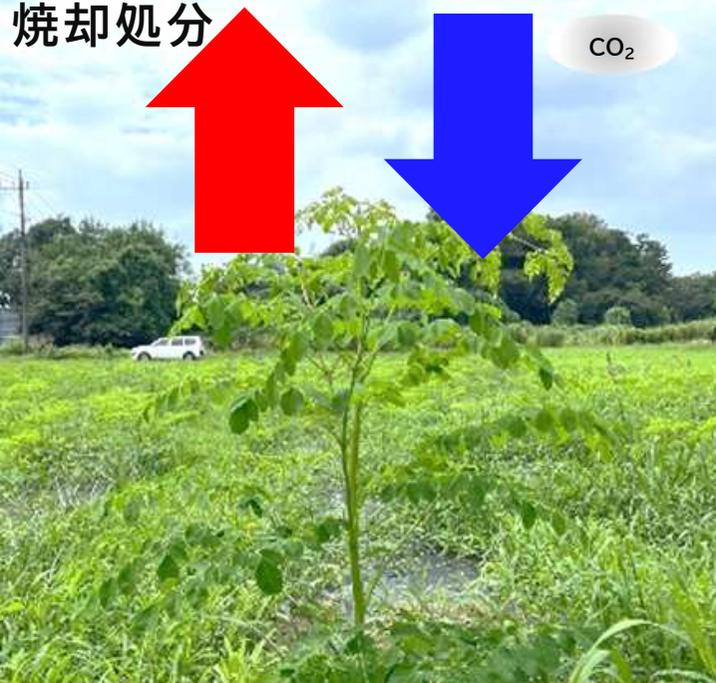
◆**令和6年度の取り組み内容**
実証実験(公有地を活用し、モリンガ栽培による炭素貯留実証実験)約2,800㎡
・**農作物のCO2吸収量測定**
可視化(農地評価の可視化)
・**農地土壌の炭素固定吸収量測定**
(埼玉県と連携してサンプル採取)



固定 カーボンマイナス
(有機炭素をすき込むことは、CO2の削減吸収になる。)



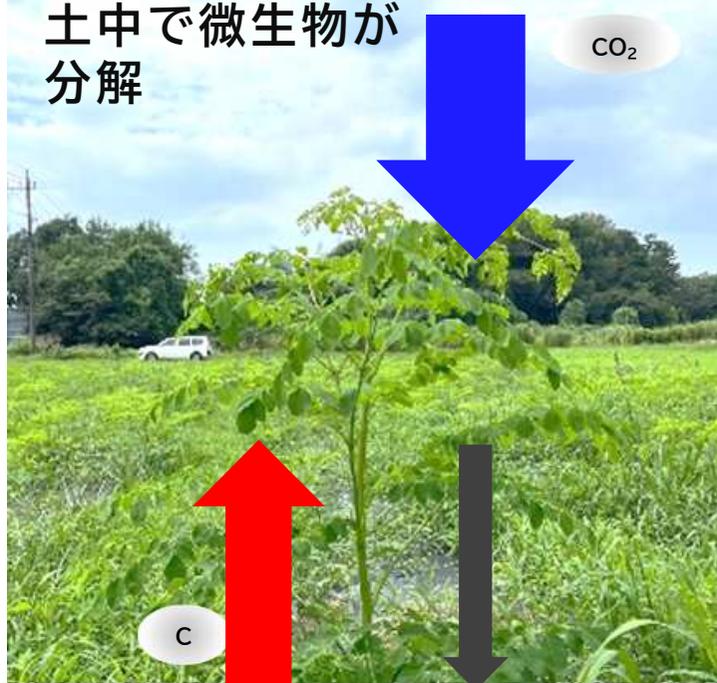
剪定枝や農作物残渣などを
焼却処分



排出 カーボンニュートラル

焼却による排出
(CO2・CH4排出)

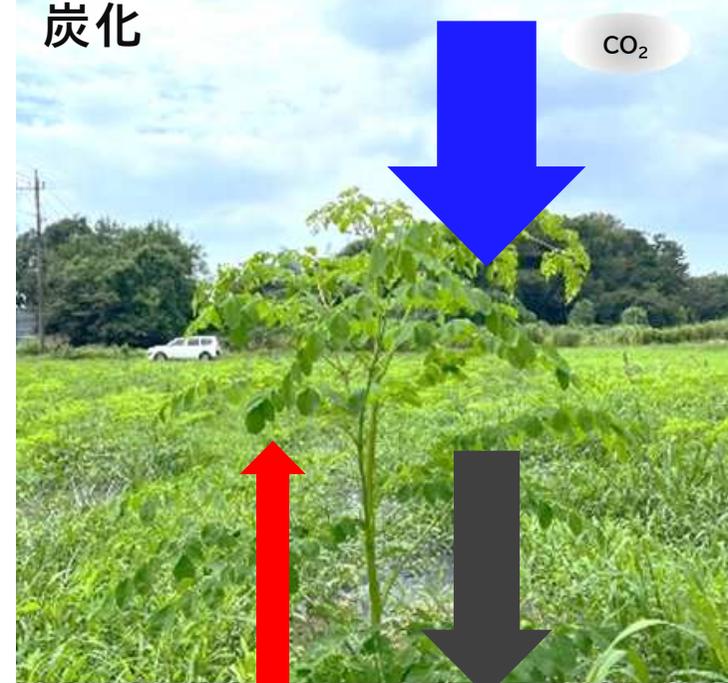
土中で微生物が
分解



固定 カーボンマイナス (有機炭素をすき込むことは、CO2の削減吸収になる。)

微生物等による分解
(CO2・CH4排出、C貯留)

炭化



難分解性の炭素貯留(C)

炭素貯留量

LP3

担当：見沼田圃政策推進課

見沼田圃におけるカーボンマイナスの取組み

【見沼田圃生物多様性プロジェクト】
「生物の生息・生育の場の提供」機能を活用

モデル地区：エコエコが管理する湿地の一部と、
斜面林・見沼代用水を事業地

コンセプト：見沼田圃本来の生物多様性保全を
目指した草地・湿地の低コスト管理

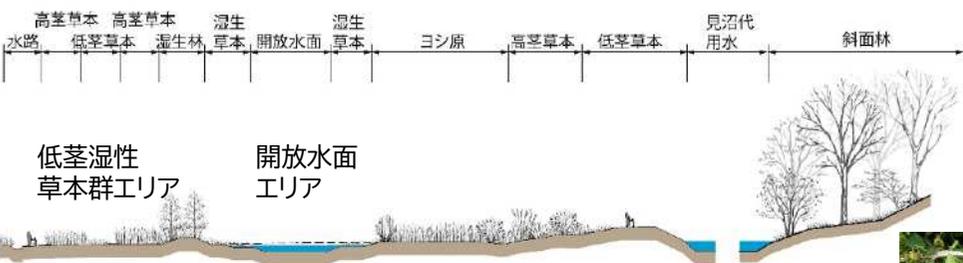


里山再生維持管理手法検討

東京パワーテクノロジー(尾瀬保全実績)・エコエコ(環境保全活動)・市で連携
二次的自然環境における**生物多様性の維持・回復を推進する実証実験**

国際OECMデータベース登録を目指す
(30by30※アライアンス参加、国際的に広く見沼田圃をPRすることができる)
(市内不耕作農地や未利用公有地などでも取組みを水平展開)
※2030年までに陸と海の30%以上を保全する目標(2021年6月G7サミットで約束)

◆令和5年度の取組み プレ整備(環境づくり)



動植物相モニタリング

- 【植物】 167種(ハンゲショウ、イヌマトラノオ)
- 【昆虫】 85種(キロサナエ)
- 【水生生物】 14種(ドジョウ)
- 【鳥類】 38種(ハイタカ、オオタカ)
- 【その他】 8種(ニホンカナヘビ)



ドジョウ (9月 代用水からの小水路) ハイタカ (1月 見沼マルコ地区) ニホンカナヘビ (10月 トラスト1号地)

LP3

担当：見沼田圃政策
推進課

見沼田圃におけるカーボンマイナスの取組み

【見沼田圃生物多様性プロジェクト】
「生物の生息・生育の場の提供」機能を活用

里山再生維持管理手法検討

◆令和6年度の取組み内容

・希少動植物の維持・保全実証実験

・水辺動植物管理実証実験

・里山環境維持ガイドラインの策定

6月時点での事業実施効果

①湿性植物数：現状31種、1.2目標37種、新規確認種3種

②トンボ類種数：現状11種、1.2目標13種、新規確認種5種 ←すでに目標値を上回った



5月30日 オオヨシキリのさえずりを確認
埼玉県レッドデータブック2018:準絶滅危惧2型)



6月26日 キロサナエ 成虫
環境省レッドリスト2020:準絶滅危惧
埼玉県レッドデータブック動物編2018:絶滅危惧Ⅱ類